鞷

植

物

金

ラ年ニ三萬圓內外ノ輸入アルやらっぱ根ヲ排シテ國産愛用ヲ實行シ度イモノデアル ラ居り薬効ニ於テハ旣ニ試驗濟デ**今叉化學的ニモやら**っぱ根ト同様ノモノデアルコトガ 殆ド 同 ŀ 言ッテモ好 **イ位ニ化學的親近ノ物質デアル、** 牽牛子ハ 既ニ古クカラ漢方デ下劑 證明 サレタノデア ŀ ₹⁄ 用 ٤ ラ jν 力

最後ニ臺灣デ廣ク食用ニ供セラレ栽培セラレルひるがほ科ノ蔬菜えんさい (蕹菜) Ipomoea reptans Poir. いもヲ生食スルト下痢シ易イノモ恐ラク少量ノ瀉下成分ヲ含有スル爲デ無カラウカ moea digitata Linn. のあさがほ I. indica Merrill たいわんあさがほ I. cairica Sweet 等悉ク然り、 moea orizabensis Ledanois コーカサス産ノ Convoluvulus Scammonia Linn. 臺灣ニ産スルやつであさがほ Ipo-ひるがほ科ニハ瀉下成分ガ可ナリ廣ク 分布シテ居ル、即チ上記あさがほ、やらっぱノ他メキシコニ産スル Ipo-さつま 寫

〇臺灣植物 (五) うらじろまき (昭和六年五月記

眞ヲ序ニ御目ニカケル、葉ハ柔軟デほられんさらノ如ク風味モ甚ダヨロシ

1

Y. Yamamoto, Formosan Plants (V). Amentotaxus argotaenia (Hance) Pilger

理 學 士 山 本

phylla ャ Podocarpus chinensisト比較シテ大イニ異ッタモノデアッタノデコトニまき屬ノ 三五七頁ニ Podocarpus (Eupodocarpus) argotaenia Hancz トシテ發表シタノデアル、ソノ材料 末初メテ支那ノ廣東省 Lofau-shan ニ發見シ、次イデ Hance氏ハ Journal of Botany 誌上第廿一卷(一八八三) モノデアル、私ハ只莖葉ノミノ材料デハ Podocarpus ニ編入セラルトモ無理カラヌコトト 過ギナイガ葉ノ裏面ニハ二本ノ太イ白線(氣孔ノ列) ガアッテ極メテ美事ナモノデアッテ Podocarpus macro-歷史的考察 うらじろまき (Amentotaxus argotaenia (Hance) Pilger) ハ E. Faber 氏、一八八二年九月 一新種トシテ發表シタ 思ハレル、ソノ後別ニ ハ單一ナル小枝

次 記

誌上

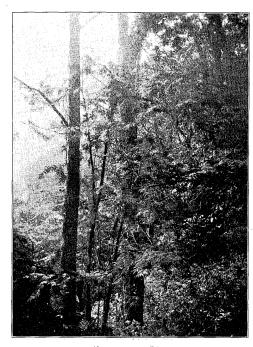


圖 タリリク山中腹海拔四千尺ノうらじろまきノ雄株 (原 圖)

and

ヤ Anthera ノ

記載ガシテアル、氏

附記シテ Podocarpus ニスレ

ジク Journ. Bot. 誌上第廿三卷(一八八五

タタイモ山デ 採集シタ材料ニョッテ同

、學名ヲ發表シタ、コノ標本ハ前者ノモ 八七頁: Podocarpus insignis Hemsley

異ナリ 雄花ヲ完全ニ有シ 從ッテ

Amen-

Hemsley 氏

Ħ

WESTLAND 氏ガ

香

常二

著明ナ

jν

種類デアル、

恐ラク異ナ

屬 非 更

ルナラ

二入ルベキデアル

ŀ

シ此ニ新ナル屬

成立 车

然ルニー九〇二

べ

自己ノ 命名セル キヲ暗示シテ居ル、

P. insignis

Cephalotaxusニ屬セ 不明ナル |イデー九〇三年松柏科植物ノ世界的分類ノ大魁 Pilger 氏ハ Engler, Pflanzenreich, 載ニョッテ初メテ我ガ臺灣ノうらじろまさハ全ク支那ト テ之レヲ Cephalotaxus ニದセシメテ C. argotaenia (Hance) Pinger ト改名シタ、 第廿六卷(一九〇二)五 今日 Podocarpus ニスレルハ大イニ疑問ナリトシ花軸ニ着ケル雄花トソノ葯嚢ノ形狀カラ見 シムベ キデアル 四七頁ニ自ラ之レヲ訂正シタ ŀ 尙ホ氏 雄花 ノ形態 同 デアル 種デアルコトヲ認メルコトガ出來ルノデアル カラ 然シ吾々ハ Hemsley 氏ノ P. P. argotaenia ト全然一致セルヲ發見シ、 = ノ屬ニ タケ ソシテ氏 F., モ ハ日ク、 更 insignis 雌

臺 灣 植 物 金

再 ナ ۲,

支那

於テ然シ場

所ヲ jν べ

異ニ キ ヤ

୬ モ 知

一九〇七年五月西部湖北省

jν

ラ

ŊŸ

或

他

屬

二入

レ ズ ŀ 云 ٤

氏 Ŧ 亦新屬

ナ jν

ヲ

暗

示

୬⁄

テ

ソ

後

米國

 W_{ILSON}

氏

灌木デ

アッタ、

卽チ

Rehder et

デ

=

,通リ塗ニ

臺

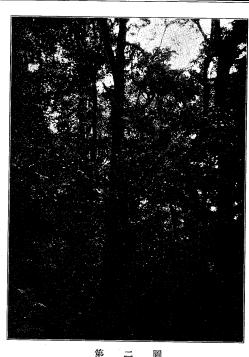


圖 リク山中腹海拔四千尺ノラらじろまきノ雌株 (原 圖)

植

ŀ

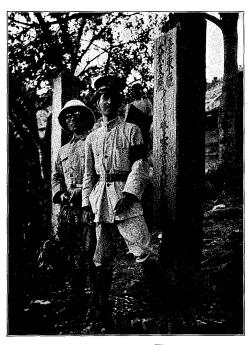
Engler-Botanische Jahrbücher, LIV. pp. 41-43. ノ他西部四川省ノ一一○○米ノ高地ニモ分布シテヲルコトヲ記シテヲルヽ Amentotaxus ナル新屬ノ設立ヲナシタ、即チ彼ハ雄花ノ構造ニョリ Wilson-Taxaceae in Plantae Wilsonianae, IV. (1914) ノ宍真: ノ彼ノ論文ニ於テコノ植物ノ精細ナル ラ約三 似セル 一百米ノ モ **尙他ノ諸點ニ於テ區別アル** 山地ニ Cephalotaxus キ Torreya : 近 降ッテー九一六年 採集シ 研究ニ基キ彼ノ豫言 タ ガコ 報告セ PILGER ハ二米位 = ŀ jν 氏 ヲ モ

pus カラ Cephalotaxus へ遂ニ Amentotaxus ヲラ 指摘 新屬ノ 成立トハナッタガ ソノ分類學 造っ就 生 ヌガ ツデアラウト述べ 材料ノ不完全ナル シ且ッ Cephalotaxus ニ近キ Taxoideae 如ク、 共ニソノ分類學上ノ位置ニ ズ 新屬ナリト jν 葉腋 キ更ニ 7 Ŀ コノうらじろまきハ ŀ ニ不完全 ヲ記 精細 位置 述ベテヲル、 3/ テ = ナ テ ナ タメニ多クヲ述 ヲ 對 ν ヲ ガ 親察ヲ 尙 w ラ **୬**⁄ IJ ホ他ノ松柏科 Æ 尙 只一 層 ホ 雌花ニ 就テ ノ確實 ナサン Podocar-7 個 卵 ベ 就 卵 テ

ナカッタノデアル、次イデ 早田氏 ハソノ 著

表シタ、然シ我邦人デ實際採集シタモノ

以上ハうらじろ まきニ對スル 研究 ノ歴史的考察ノ 概略 デアルガ飜ッテ 我ガ臺灣ニ於ケル 調査ノ跡ヲ 見ル 科ニ(後者ハ省ク)分チ Amentotaxus ハ Cephalotaxus ト共ニ之ヲ Cephalotaxaceae ニ所屬セシメタノデアル 綱ノ Taxaceae, Pinaceae ノ雨科ヲ七科ニ分類シタ、卽チ前者ハTaxaceae, Podocarpaceae, Cephalotaxaceae ノニ Hener 氏ハー八九三―四年ニ本島ノ旅行中、之レヲ 南部山地ニ初メテ 採集シ、一八九六年日本亞細亞會會誌 (1926)ニ於テ圣松柏科植物ノ大改變ヲ行ヒ、彼ノ Engr. u. Grrg—Syllabus der Pflanzenfam. (1924)中 Coniferae ノ研究ニ待ツモノ多キヲ残サレテ居タ、然ルニPriger 氏ハEngler—Natürl. Pflanzenfam. Aufl. 2, Bd. 13



第 三 圖 タリリク警察官吏駐在所ニテ江田氏ト著者 (昭和二年六月七日撮影)

Japan) 第廿四卷 "A List of Plants from Japan) 第廿四卷 "A List of Plants from Erormosa"ナル論文中九一頁ニ Podocarpus argotaenia Hance ヲ挿入シタノガ抑々初メデアル、其後 Hemsley 氏ハー九〇二年ニメデアル、其後 Hemsley 氏ハー九〇二年ニメデアル、其後 Hemsley 氏ハー九〇二年ニメデアル、其後 Hemsley 氏ハー九〇二年ニメデアル、其後 Hemsley 氏ノ目録ニョリ臺灣植物ニ Podocarpus argotaenia Hance ー Podocarpus insignis Hemsley トシテ發

臺灣植物公

テ他ノ Cephalotaxus

P

Torreya

ナ 究

۴,

ト比較シ

Þ

ガ大同小異デ兩者ト

ハ非常ニ近似ノ屬デアル

7 ŋ

ŀ

ヲ

知

jν

7

デ

アッタ、

之レ

ガ

恐ラク我邦

人

研

1

端緒

ŀ

ナッ

タ歴史的材料デアロウ、

ハコ

ノ葉ヲ

觀察シ

斷

面 接

ヲ

年 ノ 手

正

月私ハ牧野

氏即三

年賀ニ廻リタ

ル際御

年

玉卜

シテ頂戴シ初

レメテ私

ハ珍シ 依

イうらじろすきノ

、莖葉 タ

≥ 作

臺

麡

植

物

쥪

氏

三入リ

更

同

氏

力

グラ東京

牧野

富太郎

氏

ノ許ニ送ラレ

ソ

ノ鑑

定ヲ

賴

サ

v

テ

中

ァ

デ

7

jν

處

ガ =

大

Œ

リト 氏 **୬**⁄ jν 和 ٢ 名 ア 附 ヲ臺東廳 バ ಕ jν サ 社 L the Flora of Formosa 9, ŀ タ リリ 送ラ 其後數 ク社 v 次 ヲ經 イ 中間 デ 總督 ラ大正十年三月(一九二一 パ (1916)リブ 府 ガイ(八里芒)山麓路上 七 殖産局ニ送ラ 加 頁 霧 テ來)臺東廳: 夕 地 = ノ ヲ 發見シ、 大 デ 加 ア 江 支廳 $\gamma \nu$ テ 發 下 形 コ 表 態 ŀ ୬ 標 1 ア ソ 如 本ノ 何 種 = 駐 名 部へ Æ 在 珍 所 故 田 キ
ま
き
ナ

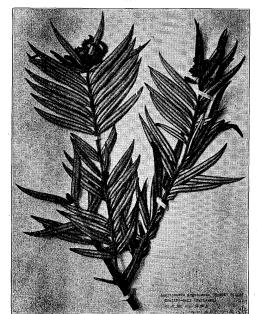
(1927)共 頁 上ノ採集品ヲ以テ昭 [ラ ト ニナ ア 集サ 種子 ガ出 私 jν 發表サレ / ッタ**、** Ŧ 來 一頁 《 Cephalotuxaceae v 7 許 氏 求 ノ發表シタ 故 18 タ jν こうらじろいぬがやト ハ メ 只雌花 テヰ 主 テ 送ラレ 社 ソノ後大正 播種ヲ試 タ jν 3/ リリク社 和 テ材 テ私 ノ Amentotaxus 無 元 即チなさト 十三年 车 キ ミラレ ノ研究ニ提供 十一月 タメ 比 較解 方 = 面 タ 屬ス 云フ 剖 ガ ハ同一デモナケレバ又近似 ヲ 月カラ (一九二六)私ハ一先ヅ原稿ヲマトメ私 argotaenia (Hance) PILGER 氏ノ發表ニョリ以上 踏 ヺ 方 रे Amentotaxus argotaenia (Hance) 研 查 屯 サ 究 ガ適當ナ名デアロ €/ 成 同 v サ 同 功 五. タ 月二 V 地 ₹⁄ ノデアル、 ナカ 方約三千尺ノ高所デ自生狀態ヲ實見 大正 亙リ金平亮三氏並 " タサウデアル、同ジク十三年五月、 十五年六月臺灣博物學會會報(一 Pilger 然ルニ ・ウト) Æ 言ッテキ ノ結果ヲ與 ナル支那産ノ コノモ 1 デモ ニ田代安定氏ハ各~大武支廳 ノ ナイ、 jν ハ是等ノ へ得ナ PILGER ヲ以テ詳細ナ 最モ 報告 Suppl. Ic. Pl. モ 寧口 種子ノ ノト ィ 材 v シ 少 料 ねがやャかや 着イタ 遺憾 **୬**⁄ 初 = ロメテ雄 3 E 十四年二月 相異 デア v 枝、 バ jν 'n 第 花 ナ 二 記載 九 雄花 = キ 八 ŀ 依 3 近 材 賴 四 <u>-</u> 金平氏 六年 然 ŀ 鑑 オ **≥**⁄ 枝 七 テ ₃⁄ ガ Æ ŀ 明 九 ヲ ソ

=

臺 灣 植 物 金



第 四 圖 バリブライ山ヨリ持來リタルららじろまき雌株ノ枝(原圖)



第 Ŧī. 圖 うらじろまき (Amentotaxus argotaenia [HANCE] Pilger) ノ雄花 (昭和六年五月撮影 原圖)

並 圖 版 九二七) 大イニ異 水ル、コ・ ニアリ ノ鶫 ´ Cephalotaxus ヲ 附 テ 小略, 卵子 デ 如 葉 ト 腋 T 其花序 單 立 ヲ セ 材 jν ヲ デ テ 窺モ ヲ 種 子 モ ŀ ガ未 出熟

佐々木舜

氏卜

南

部

坊

IJ

浸水 爲 タ

営ニ 臺灣

出

デ

1

ア

共同

月 П

植力

物問思

査ハ

IJ

ル 林

=

ナルモ 六月私

ノデナカ

ゥ

レ

雄

雌

木

種子等ノ

挿畫二枚、

タ

タ

デ

r

タ テ

IJ.

IJ ij

ŋ IJ

Щ

拔

約 訪

抵

糎

高

サ

米

内 只

テ ナ 徑 デ

目

的

ヲ

果

サ

テ

北

3/

タ

勿論デ

ア ズ

jν **≥**

其

後 外

昭

ヲ ソ

才

大雄花

過 =

枯

タ

ガ

小

枝

ı 旣

 ν

Ħ

ッ テ 海 社

テ

葉腋

二 1

個

轡 植 物 五.

依 賴 テ 置 本

圖 六 うらじろまき Amentotaxus argotaenia [HANCE] PILGER) ノ雌花 (昭和六年五月摄影 原圖)

テ私

送

≥⁄

テ

來タ

1

ア

私

充

チ

jν

アモ 附

ッテ主ト

୬⁄ デ

テ

ENEL.

和喬 タ 六 木 卵子ヲ 懸ッ 高 年 性 月三日 所 テ 月初 私 モ 生ズ ヲ 雄 時 Þ デアッタ 訪 メ IJ jν ガ見ラ 臺東 デア IJ 株 上 ク タ 数十 社: 時 Ш п IJ 駐 脈 ゥ \exists 叉 本 ブ ŀ 在 タ 植 雌 實 IJ 物 ガ 所 云 花 フ推 調 イ 地 IJ モ 山 高 査 吅 尺 1 論 海 過 市 駐 査 砌 ナ 拔 テ 照 在 二 雄花 好 IJ 私 愈 刄 樹 歽 ガ 氏 再 K 確 種 年 ヲ ハ 江 F, 後 ١ 子 實 混 \bigcirc 採 パ 田 = ŋ 研 尺 集 警官(現浸水營駐在所部長) 性 ハ 生 、方面ヲゔ 附近 究 何 **≥** ブ ヲ 3/ 見 同 ガイ山麓海拔約三五〇 與 V テ ŀ ジ モ ヲ 同 訪 雌 力 ラ **≥**⁄ 未 jν ジ 花 四 テ v 孰 1 處 月十 並 Ŋ 少 タ ヲ デ デ ガ ナ 見 小 初 Ħ 時 雄 力 デ ナ タ 期尙 タ| ラ ŋ ヲ ザ デ 採集 ŋ 早 ν 助 大

Pflanzenfam. 研究ヲ試ミタ、 Pilger氏ノConiferaeノ分類ニ基キ各科ノ 'n ŀ ハ大イ コ = ŀ Aufl. 2, Bd. XIII. (1926) 異 ヲ ソシテ雌花 發見 ナ ŋ 3 コ ニ於テ Cephalota 分離 ŀ 同 科ニスル (Journ ヲ 士 ŀ 共

テ多

以テ何レ私ノ最後ノ續臺灣植物圖譜第五輯(近刊)ニ詳細 ceae ノ新科 ノ發表スベキ豫定ニナッタノデアル、 III. 2 (April. 1931) = Cephalotaxaceae カラ分離シ コノ報告的發表ニ續キ私ハ之レガ補充的 報告ス jν 積リ デ テ アル Amentotaxus] 屬 ラ以 記載ト テ Amentotaxa-

以上へうらじろまき一名うらじろいぬがや Amentotaxus argoteania (Hance) PILGER—Amentotaxaceae

就

イ

テノ歴史的ノ考察デア

うらじろまき科 (Amentotaxaceae) ノ特

新枝 雌雄異株、 曲 ツ = 縦列セ 共ニ五對ノ小鱗片ニ ノ下方部二三葉腋 テ 小枝ニ大抵對生シ、 ル鱗片ニョッテ包マル、 雄花ハ葇荑花序ヲシテ前年ノ小枝ノ尖端又ハ同上方 ニ長梗ヲ以テ單立シ、卵子ハ卵形ニシテ肉質杯狀體 テ 全ク包マル、 一平面ニ開展ス、 雄花ハ無數ニシテ花軸ノ所々ニ群生 胚へ直立、 葉ノ裏面ニハ二條ノ廣キ氣孔 子葉二、— 喬木叉ハ灌木、 ノ 葉腋ニー―五個 **୬**⁄ ノ上ニ直立シ、 ノ白線 葯ハ二―八個ナリ、 葉ハ線狀披針形ニシ 生 ズ アリテ鮮明ナリ 雄花序ノ 上尖端 雌花 二珠孔開 テ 鎌 屬 狀ニ多 本 车 应

うらじろまき (A. テ直徑約三○糎、 argotaenia Pilger) \ 高サ大抵一〇米內外ナリ、 形態學 葉、二縦列、 的 觀察、 喬 木 多ク 文 ハ對生 半喬木、 **୬**⁄ 外觀 鎌狀 V **V**Q 線狀披針 が Þ = 似 形 タ IJ, = . ≥⁄ テ 樹 强 幹 剛 ナル

厚形ナリ、 夕少歪! 極 長 サ五 X テ短 一七糎、 + 柄 ラ有 幅〇、五一一、〇糎、 ス 緣邊 二少 ୬ ŋ 裏面 先端漸尖形ニシ 反卷 ス 中肋 テ最実端 ハ表面 角質針狀 細 戸利 々隆 = 実リ 起 ス jν Æ 底 裹 部 丽 銳 形 著 = メ

表面 雌 明ナリ、 滑澤ニシテ深緑色 雄花ハ淡緑黄色 ツ 中 肋 並 ナルモ裏面ハ淡緑色ニシテ且ツ中肋ノ兩側ニー本宛ノ太キ白色帯 緣 葇荑花序ヲナシテ前年ノ小枝 ノ淡色ノ帯線 ١, 同 ノ尖端ニ三ー 幅ヲ以 テ平行ナル 凼 五. 五. 縱 叉 線 ヲ ナ 單 ス = 狀 個 縱 ヲ 線 生 ジ r リテ 叉 同 極 ジ

臺 灣 植 物 金 チ

ナリ

臺

轡

植

物

宝

卵子ハ 上面 部ハ永存 ୬ 二、五 長梗ヲ 一五粍幅 外方 办 粍)ニ IJ, 球 ₹⁄ 上 Ú 形 方 性ノ鱗片ヲ有シ、長サ二糎徑 ŋ 外皮ハ肉質初メ紅色ナルモ後紫色トナル テ單 Ш Æ Ŧ. 五. (直 テ大キ 個 メ 1 徑約 立 jν ハ小サク(廣卵形長サ五粍、 ナリ 小鱗片 ୬ 米粒狀ノ 小鱗片ニョッテ全ク包マ 五 腋 ク = トコレニ楯形ニツケル 中程ノモ ハ花軸 —二粍) 葯ヲ着生ス、 個 ノ處々ニ集合シ殆 ニシテ肉質盃 1 ヺ 生 ズ 圓形ニシ 糎ニシテ約 雌花ハ本年ノ新枝 幅三一四 穗 ル、鱗片ハ五對アリテ互ニ對生シ外方ノ一對ハ小舟狀(長サ三粍幅 短キ花絲ト 長 狀ノ體ノ上ニ テ (徑二粍)、 サ ン 粍 約 F. 、五糎ノ長梗ヲ以テ葉腋 内皮ハ茶褐色ノ薄膜質 無柄ナリ、 ソレ 糎 3 (莖葉未ダ柔軟ナリ)ノ下方二三葉腋 3 座シ頂點 IJ 基部 最内方ノ リ上部内方ノモ ル成リ、 雄蘂ハ稍 鱗片 中 モ 央ニ 应 ノハ卵形(長サ 縱 4 ルヨリ懸 珠 圓 下面ニ花絲ヲ圍ミテニー八個、 列 ノポド大キク廣橢圓狀披針 孔開 形叉ハ半圓形叉ハ三角形 セ jν 垂 Ì 膜 種子 尚ホ 、五粍幅二粍) 片 尖端 橢圓 ゥ 以 中央部 形ニ テ 蔽 シテ下 五 ナリ 形 **≥** 糎

ららじろまきノ 分布

南部 雄州 處 テハ只支那南 三六〇〇尺 = = 分布 IJ 下 テハ臺東廳大武支廳 チ ス 力 タン jν ヲ見 部 凮 溪上流 Щ ニノミ分布シ IJ 地 jν 括シ 分布シ 發見 高雄 ノ テヲ ク 下ノ テヲル サ 州 ナ jν Ŧ タ テ 下 丈ニ テヲ ヲ ゥ IJ 方 ヵ ルガ 面 Щ IJ 之
レ 興味アル事實デアル jν 1 ク • 即チ廣東省タ 分布 Щ チ 力 力 Amentotaxus √ Cephalotaxus タ ادر IJ 今度高 ン ブ H ガ イ 布照 オ 如 Æ Щ 下同 キ 中 Ī ノ分布ト 好氏 1 Щ ハ熱帯 央 如 時ニ分類學上又一考ニ値スル Щ キ 脈 湖北省 報 中 央山 略 Ł 告 西 斜 7 = ١ ラ 面 脈 致シテ 3 ャ 西部及ビ四 ŋ ノ 東斜 亙 テ Ĭ, 支那 アル 眀 面 力 ナ 海 = 川省 中部 拔 ナッ jν PILGER 大竹 1000 ノ西部海 デ タ 部及 高 Æ ァ 溪側 п ガ デ E ア 拔 H 四 = 約 00 本 產 jν 兩 **≥**⁄ 0 Ŏ 外 國 尺 ヲ 叉

私

ハ先 ヅうらじろまきノ

歷

一史的

考察ヲ

試

3

(2)

新

科

ノ特徴並

=

種

形態學觀察ヲ述ベ

最後

ソ

適地

デアッタ、

鵠沼、

知リテ自然

吾人ハ好ンデ奇説ヲ唱ヘントスルノデハナイ、

ノ征服者デアリ破壞者デアル文化人ニ接シタル今日ノ鵠沼、

・タい過去ノ、自然ノ、

人類ノ魔手ニ黷サレ

ザ

ŋ

シ鵠

沼

片瀨

ヲ

片瀬ヲ見ルト

キ吾人ハ亡ビ行ク自然

碧波ヲ距テヽ綠翠

島ノ噴煙、

「亡ビ行ク」

トハ

外ニハアルマイ

ceae ニ包含サルベキモノデアラウト云フコトヲ附言シテ置 トニシタ、只最後ニコノ科ハCephalotaxusヨリモ寧ロTaxusニ近ク從ッテ他ノ科ヲモ考慮スルナラバ或ハTaxa-タイト思ッテヰタガ已ニ第二項ニ記シタ記載デ自ラ明デモアリ、又紙面モ餘リナイノデ後ニ讓リ今度ハ省クコ Ŧ 記 ₹⁄ テ 來 ヌ ガ 尙 コ 科 ŀ 他 科 ŀ 雌 花 雄花 = 就キ各々比較シテ Amentotaxaceae 新 設 理 由 ŀ 3/

最後ニ本調査ニ當リ少ナカラザル材料ト便宜ヲ賜ハリタル金平博 高市兩氏ニ深厚ナル謝意ヲ表スルモノデアル (完 士 牧野博· 士 佐々木 舜 氏並ニ 江.

〇亡ビ行ク湘南ノ鵠沼片瀨ヲ弔フ

Ħ

內 淸 孝

久

ノ孤島江ノ島ト相對シ更ニ遙ニ富嶽ヲ盟主トスル駿、豆、 相、 甲連 Щ ノ 展 望ヲ擅 と開 マニ 一般ニ亞 ୬ ` グ

開發ヲ以テシ、貴顯ノ 邸宅別莊ノ 造營相次グノ盛況ヲ.見ルニ至リ 今後更ニ一層殷ナルモ 眞鶴岬ノ斗出ヲ指呼ノ間ニ望見シ得ル湘南ノ鵠沼、 何故ナリャト問フ 粹客ハ多カラント 雖モ之ヲ弔フモノハ往時ノ鵠沼、 片瀬ガ小田急電車支線ノ延設 片瀬ヲ低囘スル吾人 三伴 ノアラント

ス

ŗ

片瀨ノ爲メ一言ノ弔辭ノ胸裏ニ湧出シ來ルヲ禁ジ得ザルノデアル、嗚呼悲哉

想起スレバ昔日ニ於ケル サレバみしかきぐさ、 鵠沼 ヤ片瀬ハ 吾等同! むらさきみしかきぐさ、ほざきのみしかきぐさ、いぬせんぶり、ご 好 ノ好採集地 デアッタ、好個 ノ濕砂原デアッタ、 吾人こ否、

亡ビ行ク湘南ノ鵠沼片瀬ヲ弔